

一般社団法人つながり探究所 2025 年度活動報告

2026年 6月 1日

一般社団法人つながり探究所法人目標の振り返り

- *マニュアル整備、業務分担の向上➡マニュアルについては、スタッフ間で相談し整備の必要性を感じて、つなしょ喫茶の衛生管理について情報共有を行った。マニュアル作成については取り組み始めている。シフト、食材管理、駄菓子管理など業務をそれぞれの担当に振り分けて運営準備ができた。
- *食を活用した相談支援を行いたい団体への中間支援仕組み構築➡新規子ども食堂立ち上げの相談を受けて、食材の支援を行った。また、短期間で運営が安定する子ども食堂はほぼないため、継続した支援を要する。2024 年度に整備した仕組みが定着できるように、休眠預金助成期間での運営にとどまらず、スタッフで協力して仕組みを継続することができた。
- *手書きで行ってきた集計の Excel データ集計➡データ集計ができるように、スタッフ間で相談を重ね、検討してきた。次年度から実践するための準備を進めている。
- *スタッフの相談支援向上のための育成➡OJT にて相談支援の在り方をスタッフに教えてきた。個別支援や食材提供の際には、担当スタッフが関係性を構築し配布できるようになった。
- *新たな担い手の確保➡参加者に声をかけ、新たな担い手となった人が2名。既存のスタッフから事務局となった人が5名に増えた。スタッフを辞めた人は1人もいない。
- *地域で暮らす高齢者への福祉サービス立ち上げ検討➡地域の高齢者のために、どの福祉サービスがつながり探究所の法人運営に適しているか検討。名古屋市介護保険事業ミニデイサービスの立ち上げに向けて、講習会や図面の相談を行い、スタッフ間で検討を重ねた。高齢者は、つなしょ喫茶での自由な過ごし方を楽しみにしており、利用者の数も増えていることから、次年度もつなしょ喫茶を継続していくこととした。

(1)活動実績

- ・活動日数 135日
- ・参加者総数 子ども 4072人 大人 2247人 合計 6319人
- ・事務局スタッフ 7人 ・スタッフ登録人数 24人
- ・スタッフ延べ活動人数 890人

(2)寄付支援

認定 NPO 法人フードバンク愛知 認定 NPO 法人セカンドハーベスト名古屋 認定 NPO 法人むすびえ 一般社団法人全国食支援活動協力会 守山区社会福祉協議会 あいち子ども食堂ネットワーク 愛知子ども食堂応援ステーション 名古屋子ども食堂ネットワーク ブイドラッグ バロー 協豊製作所 パナソニックエイジフリー ルクスキャリアセンター 志段味図書館 守山図書館 ボランティアオアシス マルハン 大橋様 小林様 加藤様 浅利商店 餃子の王将 ピザーラ 株式会社ガスパル つなしょ会員のみなさま

(3)助成実績

- ・愛知県食材高騰対策支援金
- ・子ども家庭庁ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業
- ・名古屋市子ども食堂等運営補助金
- ・食品アクセス確保緊急支援事業補助金
- ・名古屋市生活困窮者支援活動支援事業補助金
- ・愛知県自立支援体制確保対策事業費補助金
- ・イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン
- ・マルト水谷ハッピーリングチャリティ
- ・守山区社協ふれあいいいきサロン助成
- ・愛知県共同募金会つながりをたやさない社会づくり事業費
- ・愛知県子ども食堂等推進補助金
- ・名古屋市子ども食堂への食品配布事業

(4)各事業報告

- ・子ども食堂「つな食堂」 開催数 36回 参加者数 1160人
大人 267人 子ども 893人

昨年度に引き続き、始業式終業式長期休暇に子ども食堂を開催している。以前はチラシを学校で見ると参加する子どもがほとんどだったが、季節の風物詩のように覚えている子どもたちが増えている。参加者が増えると、熱中症の危険等もあり予約制とした。これにより、食材の量も把握できるので、スタッフの不安も軽減している。近隣の特別支援学級の教員から「あの子どもが参加していると聞いて安心しました」という声があった。さまざまな子どもが

参加していることが、つな食堂の強みであり継続しなければいけない理由の一つでもある。

・つなしょ喫茶 開催数 135回 参加者数 1839人
大人 1280人 子ども 559人(延べ)

今年度から昼食提供を本格的に開始。一汁三菜とデザートの定食を提供。緑ヶ丘住宅に暮らす一人暮らし高齢者に向けて始めた。徐々に口コミで広がり、毎回満席である。主に一人暮らしの女性が多く、賑やかな時間が流れている。同時に、未就園児の親子連れの参加もあり、子育て世帯の居場所にもなっている。中には足腰が弱くなり、スーパーまでの買い物が困難になっていたり、認知症の心配がある方もある。希望する方へ、夕食の食事を販売したところ、定期的に希望する方もあり、市営住宅建て替え工事により、緑ヶ丘住宅が陸の孤島となっていることが証明された。

・おもちゃ図書館「つなとしょ」 開催数 10回 参加者数 187人
大人 84人 子ども 103人

口コミよりも図書館のチラシを見て参加する人が増えて、興味を持ってきているんだと驚いた。地味な活動だが、おもちゃ図書館を居場所としてくれていたことがとても嬉しかった。アンパンマンは不動の人気第1位で、アンパンマンのおもちゃで遊んでいる子どもがいてほほえましい。しかしながら、スタッフの確保やおもちゃの搬入がとても負担になっている。そのため、志段味図書館での開催に区切りをつけることとする。今後は、つなしょにてつなしょ開所日をおもちゃ図書館の日として活動を行う。おもちゃの入れ替えや整理については、これまで参加者として来ていた人がスタッフとなり、おもちゃの管理を協力して行っていく。貸し出しについては、おもちゃ整理が整い次第再開する。

・フードパントリー「食べ物おすそ分けの会」

総配布量 7トン 50キロ 回数 135回 利用者 1672人
支援団体数 32団体 配布回数 167回

受け取り団体や、会員への配布、困窮者など、それぞれニーズが異なるために、賞味期限を管理しつつ、必要となる方へ配布することはとても難しい。倉庫の出入を適正に管理するため、月に一度集計を行い記録を徹底した。備蓄米の配布を受けたため、安定して米を保管し、配布することができた。米の量は、必要に応じて合にするか、キロにするか検討した。1キロでの配布に落ち着いたが、家族構成によって量や回数を変更することも今後の課題といえる。マナーの悪い会員が少なからずいて、対応に困っていた。継続会員の方には、更新の際につながり探究所の理念や食べ物おすそ分けのルール、食材がつなしょに寄付されるまでを説明し、お互いが快く利用できるように理解を求める機会を作った。

・食を活用した支援を行いたい団体への中間支援

相談件数 169件 支援団体数 32団体

配布団体の受取数は少なくなったが、行政機関等からの個別相談が増えている。名東区社会福祉協議会と相談して、つなしょから名東区社協重層的相談支援事業へ、月に1回程度ボランティアスタッフが食材を届ける取り組みが始まった。また、継続した支援を求められひっ迫した状況と感じたため、本地住宅へは月に2度食材支援を行っている。行政機関等からの依頼も増えており、名古屋市子ども・若者総合相談センターから依頼を受け、パントリーへの食材提供が始まった。

子ども食堂等食材を希望する団体は、お菓子ジュース生鮮食品を希望する団体が多い。食材購入する際は500mlの飲料よりも、2ℓサイズを購入した方がよいのではないかと、という声がスタッフから上がっている。食材購入対応スタッフを配置して、今後は食材購入の際に、受け取り団体の声を聴き検討していきたい。

・生活困窮者、外国人支援

個別相談件数 540件

行政相談機関からの連絡を受け、食材等を配布する事例が増えている。年会費を払えない方には、「本当に困った時の食べ物券」を渡して、障がい者年金の支給月以外に生活ができるように支援した。守山区重層的相談支援事業からの紹介があった方に限定して取り組んだ。中には引きこもりの若者や、外国にルーツのある家庭、ひとり親家庭、離婚調停中の方など悩みが具体的な方もある。相談をしつつ、必要な食品等を渡せる仕組みができた。今後は、仕組みが定着するよう取り組みたい。それには、事務局のスタッフ数を増やし、相談支援ができるスタッフを養成しなければならない。スタッフの相談スキル向上は次年度の課題にしたい。

・小幡緑地冒険遊び場 年間8回開催 総参加者数 675人 スタッフ数55人(のべ)

流しそうめんや、季節の遊びを行った。天候や、インフルエンザのまん延などもあり、目標の回数は開催できなかった。小幡緑地公園は、前身である小幡緑地冒険遊び場を廃止した頃から考えれば、レストランやキャンプ場ができ、芝生広場は整備され子どもたちが夕方まで安心して遊ぶことができる環境になった。公園の安全性や活性化を考えてきた私たちからすれば、本当に素晴らしいことであると思う。常設の冒険遊び場(プレーパーク)実現はできなかったが、子どもたちが安心して遊べる環境は確保できたし、つなしょでも居場所ができている。冒険遊び場は一旦区切りをつけて、今後はイベントや小幡緑地まつりへの出展を行っていくこととする。これまで、小幡緑地冒険遊び場を支えてくれた方達がおかげで、今のつながり探究所があるということに心から感謝している。今後もスタッフへ伝え続けていきたい。子どもの豊かな育ちには、冒険遊び場のような自然の中に入り込んだ遊びが必要不可欠であることから、子どもが自由に過ごせる環境作りを今後も作っていきたい。

・小幡緑地まつり 2025年 11月22日 小幡緑地本園にて

今年度は、チラシデザイン印刷と冒険遊び場を開催した。つながり探究所がどのようにして始まったのか？を知るスタッフは現在ほとんどいない。スタッフに、冒険遊び場という外で自由に遊ぶということが、子どもの心や体を育むことにつながっているんだと伝えたいと思い、取り組んだ。芝生広場で行い、ブランコや木工を楽しんだ。参加者の中には、子どもの頃に冒険遊び場に来ていて、父になり子どもを連れて参加していた親子があった。コツコツと続けてきて本当に良かったと思える出来事だった。

全体を通して

午前は、地域の高齢者と未就園児親子、午後からは子どもたちというように、ニーズに合わせた内容へと進化した。特に高齢者の利用が増えてきたことで、食事のメニューも充実し孤独孤立対策にもつながった。これまで試行錯誤し、運営をしてきたが事業内容の柱が定まりつつある。また、スタッフの確保と安定した資金の確保ができつつあり、それぞれの事業について担当者を配置するなど、スタッフの役割を明確にするための仕組み作りも始まっている。スタッフが誰一人辞めることなく活動を継続できたことは、つながり探究所としての大きな強みでありさらなる発展へ向けて自信となる。これまで週4日を目標に掲げて準備を進めてきた。次年度からは、いよいよ週4日開催が実現できる。関係機関との連携による個別対応や、個人相談も増えている。今後もうつながり探究所ができる支援を、1つずつ丁寧に取り組み、地域に必要な社会資源となるよう取り組んでいきたい。

